

# ☆寄居の環境整備センター見学☆

5月18日、ネットワーク三芳主催の寄居の埼玉県環境整備センターの見学会に参加しました。三芳町のゴミが最終的にどこに運ばれるのか、ゴミの行方を追って、今後の三芳町のゴミ問題を考えることが目的です。

昨年、会派で焼却ゴミの行方を追って山形県米沢の最終処分場を視察しました。三芳町では、この他に今回訪れた埼玉県環境整備センターにも不燃物の最終処分を委託しています。事業主体は埼玉県。事業内容は、廃棄物の最終処分(埋立処分)。受入対象は、県内市町村等からの一般廃棄物、県内中小企業からの産業廃棄物。敷地総面積 97.7ヘクタール、埋立重量271万t。埋立地はサンドイッ

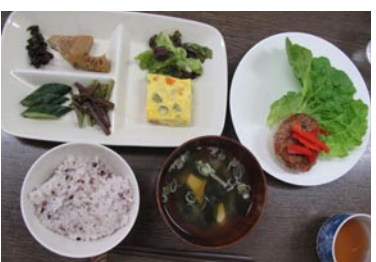


写真(左)は、搬入された廃棄物(焼却灰)に覆土するコンボ。また、他に敷地内には、彩の国資

源循環工場があり、民間企業8社が入り、各種廃棄物のリサイクルを行っています。受入量 2394t(日(8社合計) 再資源化率約93%(8社平均)

こうした施設を見学することが、ごみの減量化への意識向上につながるかと強く感じました。

また、昼食は、地元の有機野菜を使った、小川町の日替わりシェフレストラ「ベリカフェつばさ」で、新玉ねぎのステーキハスラー



添定食(750円)をいただきました。有機農法の先駆者、霜里農場の園主金子美登氏が栽培した野菜です。

## ●日本自治創造学会

新しい時代の中で、自治体が、そして首長や議員がどう対応し、また議会が変わっていくべきか。5月17日、こうした研究を行うことを目的に日本自治創造学会が発足されました。冒頭、穂坂邦夫会長より挨拶、続いて左記の講演が行われました。

- ・佐々木信夫中央大学教授 「地域主権国家と地方自治の展望」
- ・逢坂誠二衆議院議員(写真左) 「わが国の地域主権改革」
- ・御厨貴東京大学教授 「日本政治の課題と展望」



それぞれ、国政を含め現在の政治状況に対

して厳しい意見と、地方自治、議会の役割と重要性についてお話しされました。

民主党の逢坂首相補佐官は、北海道ニセコ町の首長を経験されていたことがあるだけに、民主党が進める「地域主権」の説明には強い思いが感じられました。「地域主権」が叫ばれる中、私達地方議会も、変革の波に乗り遅れず、議会改革を推進して行かなくてはいいですね。

## ●自治政策講座

5月21日22日、横浜にて自治体議会政策学会主催による第12期自治政策講座が開催されました。住民と変える「地域の課題にこえる議会へ」というテーマのもと、5講座が開講されました。

講座の内容は、議会改革、自治体行政、生物多様性保全と自治体

の環境政策、地方分権の中での道路行政、介護保険の見直しなど多岐に亘り、各自自治体、議会が抱える問題に対して問題提起を含め、わかりやすく講演いただきました。

特に、武藤博己法政大学大学院教授は(写真左)、「分権と道路行政」というテーマで、イギリスの事例を紹介しながら、「道路行政を研究してきた結論として、モータリゼーションの時代が終わり、少子高齢化の時代になり、公共事業ではなく、福祉など生活のニーズで地域が生きていけるシステムを構築しないといけない」と話す。



今後の三芳町のまちづくりに対して大きな示唆をいただきました。